

TOTSUKA EMBROIDERY
STITCH BOOK

戸塚刺しゅう
ステッチBOOK

総集編 上

ステッチBOOK ① 基礎編 (改訂版)	2
ステッチBOOK ② 応用編 ボタンホールS. (改訂版)	18
ステッチBOOK ③ 応用編 チェーンS.	34
チェーンダーニングS.	42
ステッチBOOK ④ 応用編 シャドーS.	50
ステッチBOOK ⑤ 応用編 フェザーS.	66
リーフS.	76
ステッチBOOK ⑥ 応用編 ジャーマンナットS.	82
ケーブルS.	93

…はじめて刺しゅうをする方のための…

刺しゅうの基礎

(最初に糸や針、用具について覚えておきたいこと)

刺しゅう糸について

刺しゅう糸は 25 番の糸と 5 番の糸が一般的によく使われます。どちらも素材は綿 100% です。それぞれの糸の特徴は……

【25 番刺しゅう糸】 一束で 8m の長さがあり、細い糸 6 本がゆるくく合わせられた糸です。「2 本取り」、「3 本取り」などのように、この細い糸を 1 本ずつ引き出して、使用する本数を合わせて使います。

【5 番刺しゅう糸】 よりのある 1 本の太い糸で、一束で 22.5m の長さがあります。

針について

刺しゅう用の針は針穴が大きめにあいているのが特徴ですが、先のとがったフランス針と、先が丸いクロス針が最も良く使われます。また、針の太さと長さにより号数で分けられていますので、刺しゅう布の素材や、糸の本数などに合わせて針を使い分けましょう。

【針と糸の関係】

フランス針	クロス針
1~2 本取り…5 号	2~3 本取り…24 号
3~4 本取り…4 号	6~10 本取り…20 号
6~8 本取り…2 号	12~18 本取り…16 号

布について

刺しゅうは身近にある布ならばたいのものに刺すことができますが、一般的には木綿や麻などが刺しやすいです。また、刺しゅう用布として、「オックスフォード」や「ジャバクロス」など、刺しゅう用として織られた布も各種揃っていますので、用途や目的に合わせて選びましょう。

その他の用具について

刺しゅうに必要な用具がいくつかあります。

●刺しゅう枠

布を枠にはめた方が布が張って刺しやすくなります。円形のものが一般的で、いろいろな大きさがありますが、直径 10~12cm くらいの枠が使いやすいでしょう。

●はさみ

刺しゅう糸を切るはさみと、布を裁断する裁ちばさみが必要になります。刺しゅう糸を切るはさみは、先のとがった良く切れるものを選びましょう。

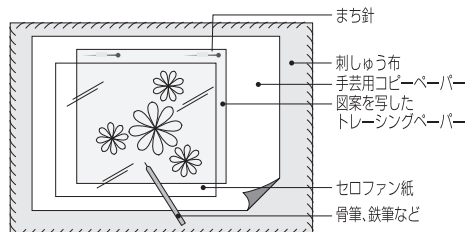
●図案を布に写すための用具

鉛筆・定規・トレーシングペーパー・刺しゅう用コピーペーパー(複写紙)・セロハン紙・まち針・骨筆または鉄筆(インクのなくなったボールペンでも良い)

この他、アイロン、セロハンテープなど、家庭で使っているものの中から利用してください。

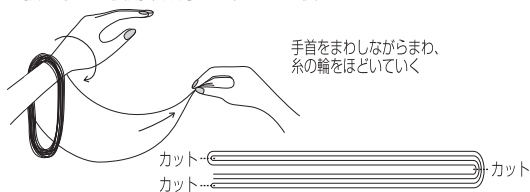
図案の写し方

図案を布に写すときは、手芸用コピーペーパー(複写紙)を使って転写します。



糸の扱い方

25 番の糸は一束で 8m の長さがあるので、最初に 8 等分に切っておくと扱いやすいでしょう。まず、上下の紙帯を取り、糸の両端を右手で持ち、糸の束を輪にして左の手首にかけます。そして手首をまわしながら糸の輪をほどきます。こうすると糸は 2 等分になり、この両端を合わせて 4 等分、さらにその両端を合わせて 8 等分にします。そこで、両側の輪になった糸を切ります。最後に、色番号の紙帯を通しておくと便利です。使用するときは、細い糸を 1 本ずつ抜き取って使用本数分だけ合わせて使います。



糸の針への通し方

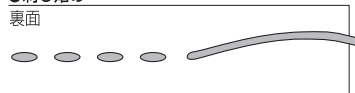
刺しゅう糸を針へ通すときは、糸の端の方を針を利用してふたつに折り、折りぐせをつけてから、そこへ針穴の方を押し込むようにして通します。慣れると簡単に素早くできる糸の通し方です。



糸の針への通し方

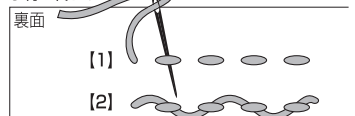
刺し始め、刺し終わりとも、玉結びはつきりません。糸の始末の一例としては、刺し始めは布の裏に糸を 7~8cm 残して、ステッチをはじめます。ステッチができた裏に糸を出し、最後の針目の糸をすくい、同じように 4~5 回針目をくぐらせてから糸を切ります。最初に残した糸にも針を通して、刺し終わりと同じように針目に糸を数回くぐらせてから糸を切ります。

●刺し始め



刺し終わりの糸の始末が済んでから、この糸にも針を通して刺し終わりと同じように糸をくぐらせてから切る

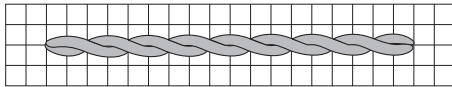
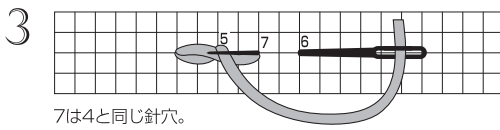
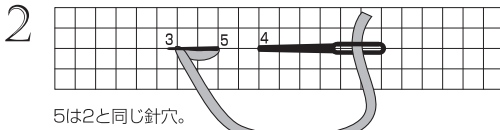
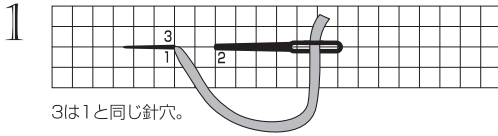
●刺し終わり



裏の針目の糸に 4~5 回くぐらせてから糸を切る

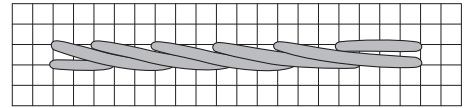
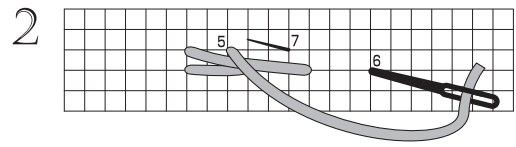
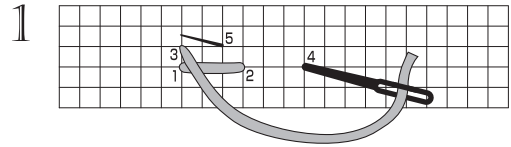
◆アウトライン・ステッチ◆

アウトラインというその名の通り、輪郭線などに良く使われる基本的なステッチですが、面を埋めるときにも使われます。曲線を刺すときは針目をやや小さく刺すときれいです。



◆レイズドアウトライン・ステッチ◆

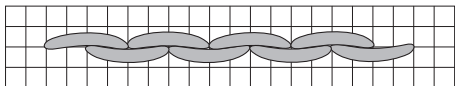
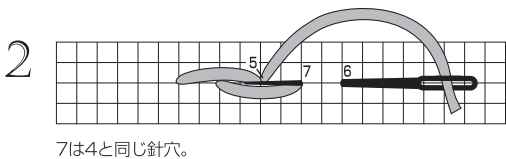
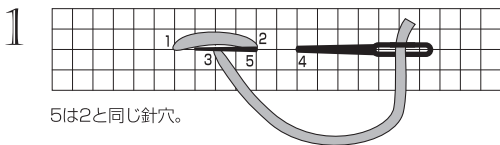
アウトライン・ステッチの応用で、同じ針穴に戻らずに少し離して針を出して繰り返します。太い線を表現するときによく使われるステッチです。



旧名称 = アウトライン・ステッチの変形(希望)

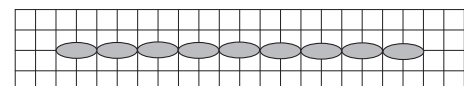
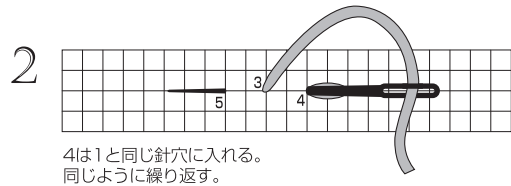
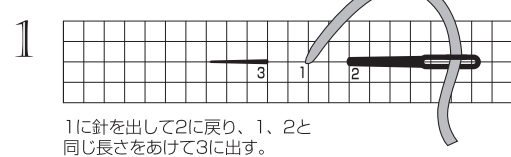
◆ダブルアウトライン・ステッチ◆

アウトライン・ステッチと同じ針運びですが、糸を出す方向を上下交互に変えて行きます。アウトライン・ステッチより太い線ができ、輪郭線などに良く使われます。



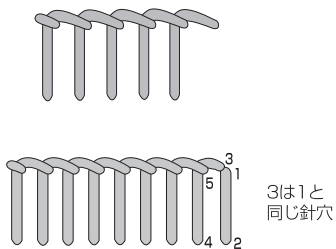
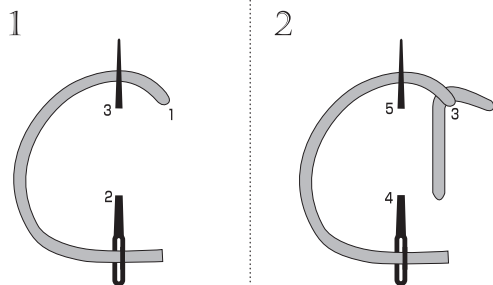
◆バック・ステッチ◆

最も基本的なステッチのひとつです。一度後ろに戻って(バックする)から前へ針を出して進んでいくステッチで、同じ間隔で続けて行きます。輪郭線などに良く使われます。

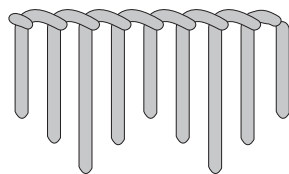


2 ボタンホールS.の応用

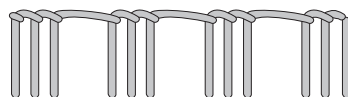
◆ボタンホールS.の基本の刺し方◆



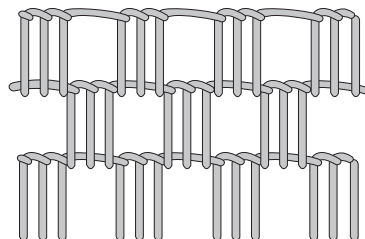
応用1 針足に長短をつける



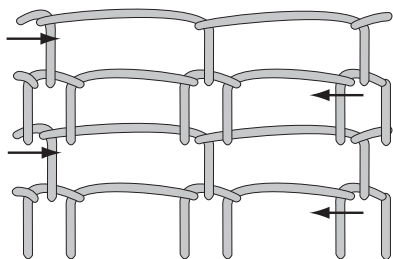
応用2 間隔を変えて刺す



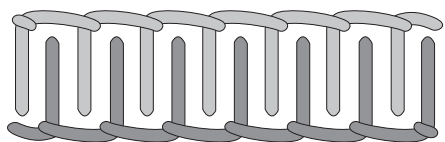
応用3 間隔を変えて何段か重ねる



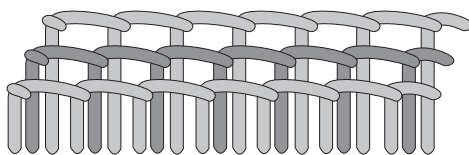
応用4 何段か重ねるが、刺す方向を交互に変える



応用5 逆向きに2列刺す

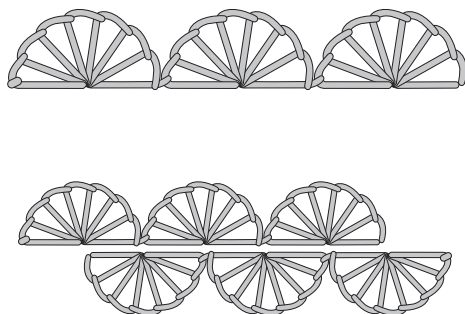


応用6 ずらしながら重ねて刺す



針足を順に短くした場合

応用7 半円形になるように刺す



3 チェーンS.の応用

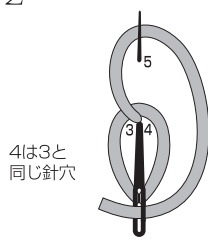
◆基本の刺し方◆

1

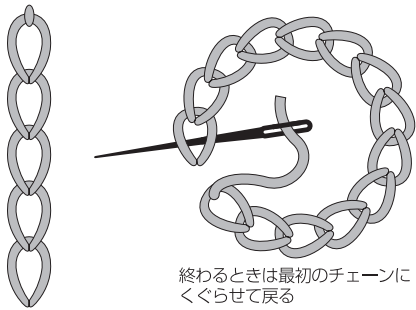


2は1と同じ針穴

2



4は3と同じ針穴



終わるときは最初のチェーンにくぐらせて戻る

応用1 チェーンの長さに変化をつけて刺す



応用2 ジグザグの形に刺す



応用3 チェーンS.にチェーンS.を重ねる



応用4 チェーンS.にジグザグのチェーンS.を重ねる

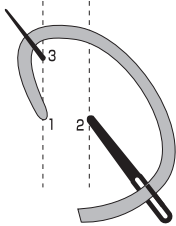


応用5

オープンチェーンS.

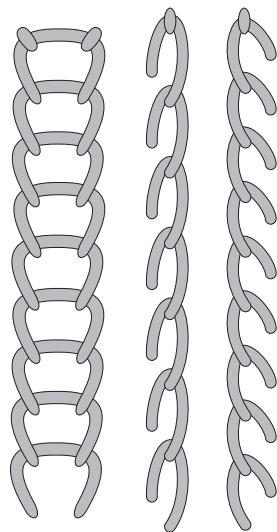
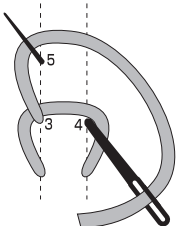
◆このステッチは本書 P.8の「ステッチBOOK 1 基礎編」にも掲載されています

1



ややゆるめに糸を引く

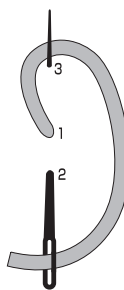
2



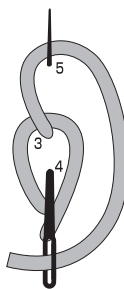
応用6

チェーンS.の足元をずらして繰り返す

1

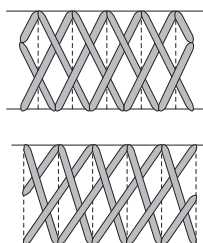
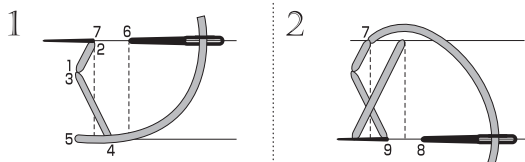


2



4 シャドーS.の応用

◆基本の刺し方◆

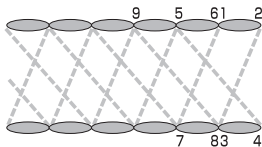


リーフ型に刺した場合

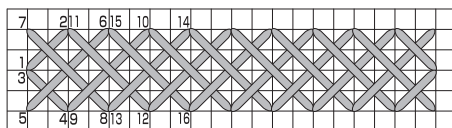


裏シャドーS.

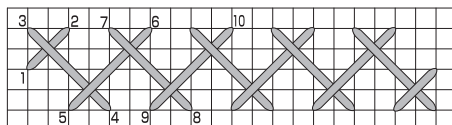
本来のシャドーS.は、オーガンジーなどの透ける薄手の布を用い、裏に糸が交差して渡るように刺すことによって表から淡く模様が見え上がるステッチですが、現在では表に糸が交差する方を「シャドーS.」と呼んでいますので、このステッチの方を「裏シャドーS.」と呼んで区別しています。



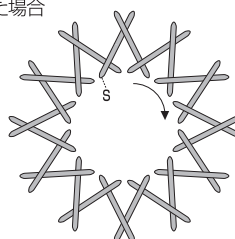
応用1 上を下の2倍の目数すくう変形



応用2 間隔をあけた変形

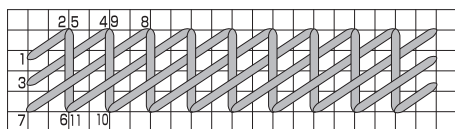


円形に刺した場合

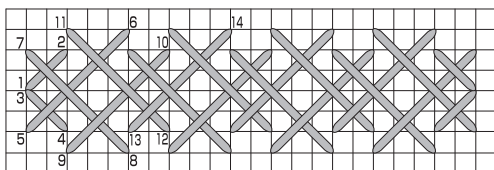


最後は最初の糸にくぐらせる

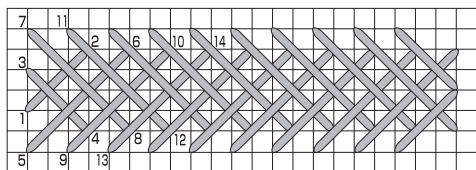
応用3 上から下へ降りる糸を垂直に刺した変形



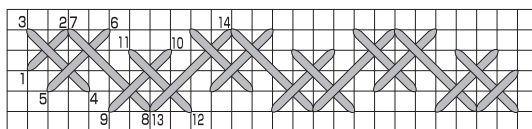
応用4 すくう糸の位置を上下にずらしながら刺した変形



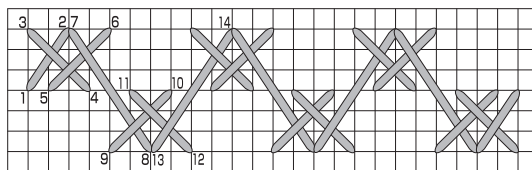
応用5 上下に針足をずらした変形



応用6 位置を上下交互に移動しながら刺した変形



応用7 位置を上下交互に大きく移動しながら刺した変形



応用8 渡す糸の長さや間隔に変化をつけた変形

